

＜調査の目的・意義＞

葛飾区では、自然・環境レポーターの皆様により頼り、昭和60年代から区内のモニタリング調査を実施してきました。それらは、区民の皆様により公表されると同時に、各種施策にも活用してきました。

生物多様性を守り（保全）、生態系をよみがえらせ（再生）、つくり出す（創出）ことに大きな関心が集まっている現在、現状を把握するための自然環境調査は、ますます重要な意義を持ってきました。

＜指標種の選定理由＞

葛飾区では、2012（平成24）年11月に生物多様性かつしか戦略を策定しました。このかつしか戦略の指標種は、「区民にも見つけやすく親しみやすい種」及び「温暖化や外来種の影響」などを考慮した種を選定しています。今回のレポーターの新しい指標種（55種）も、かつしか戦略の指標種に基づいて選定しました。

なお、レポーターの新しい指標種（55種）を選定するにあたり、区内の生きものに詳しい専門家やレポーターの皆様による「指標種検討会」を2回開催しました。

この解説資料に新しい指標種（55種）を掲載していますので、調査時にご活用の際は、よろしくお願ひいたします。

【本書のマークの解説】

環 環境省 第4次レッドリストの公表について（2012）

東 「レッドデータブック東京2013
～東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版～」
（今回は区部にランクされている種を対象とした）

■カテゴリー区分と記号

EX：絶滅 EW：野生絶滅
CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類
VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足
（東京都）留：留意種

戦 「生物多様性かつしか戦略」（2012）の指標種に選定されている種

外 外来種（特定外来生物以外）

特 特定外来生物（環境省 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき、規制対象となる特定外来生物）

温 温暖化のモニタリング対象の種

鳥類の渡り区分

夏 夏鳥：春に南の地域から渡ってきて日本で繁殖し、秋には南の地域へ渡って越冬する種。

冬 冬鳥：秋に北の地域から渡ってきて日本で越冬し、春には北の地域へ帰って繁殖する種。

留 留鳥：一年中観察できる種。漂鳥（国内で季節移動する種）を含む。

旅 旅鳥：春秋の渡りの途中に立ち寄る種。

葛飾区自然・環境レポーター 自然環境調査区地図

※調査区域は本図のとおり5区域とする

大場川中州自然保護区域
(約 12,200m²)

【指定内容】
自然植生群落、野鳥、昆虫



水元さくら堤自然保護区域
(約 400m²)

【指定内容】
フジバカマ自生地



**西水元水辺の公園
自然再生区域**
(約 3,400m² 延長約 100m)

**曳舟川自然再生区域
[亀有・白鳥・お花茶屋地区]**
(約 6,000m² 延長約 590m)

古隅田川自然再生区域
(約 6,102m² 延長約 615m)

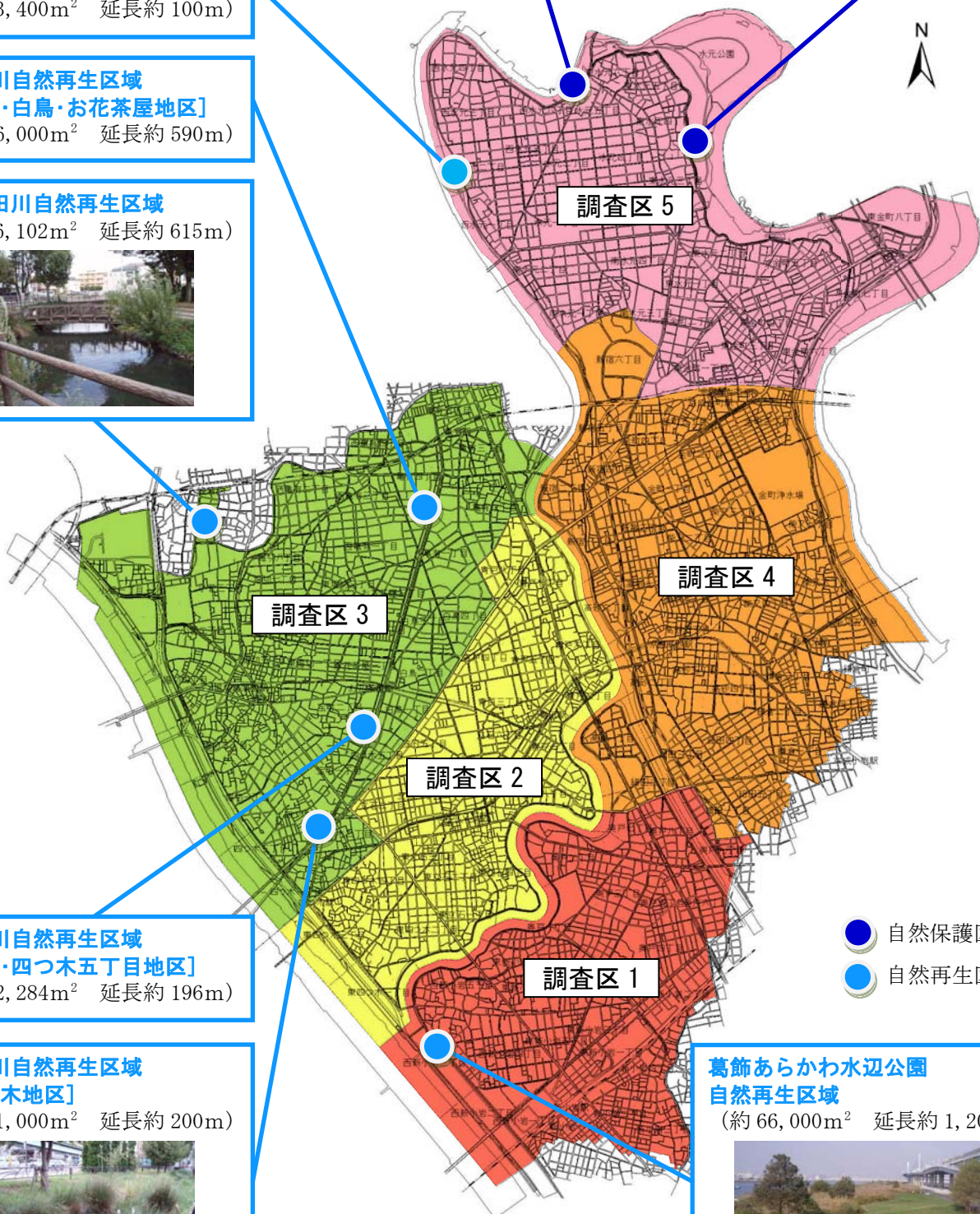


**曳舟川自然再生区域
[宝町・四つ木五丁目地区]**
(約 2,284m² 延長約 196m)

**曳舟川自然再生区域
[四つ木地区]**
(約 1,000m² 延長約 200m)



**葛飾あらかわ水辺公園
自然再生区域**
(約 66,000m² 延長約 1,200m)



野鳥 10種 (1/2)



コアジサシ (カモメ科) 環 **VU** 東 **EN** 戦略

全長 25cm 程度。アジサシよりひと回り小さい。雌雄同色。成鳥の夏羽は頭と目の周りが黒く、くちばしは黄色い。ふだんは飛びながら「キュッキュッキュッ」と鳴く。本区では、河川、池沼等で、群れでみられることが多い。



ツバメ (ツバメ科) 戦略

全長 17cm 程度。雌雄同色で、飛翔する姿は全体に黒っぽい。額とのはちまきは赤茶色、体下面は白い。「チュピチュピ、ツイー」等と鳴く。本区では市街地でみられ、民家の軒先に営巣する。



びはん
眉斑



オオヨシキリ (ヨシキリ科) 東 **VU** 戦略

全長 19cm 程度。雌雄同色。成鳥は頭からの上面が灰褐色で、眉斑は白っぽい。雄は繁殖期に大きな声で「ギョギョシ ギョギョシ」と鳴く。本区では、河川、水路、池沼等の水辺のヨシ原でみられる。



コガモ (カモ科)

全長 38cm 程度。日本のカモ類のうち、最も小さい。雄の成鳥は頭部が茶褐色、目の周りは緑色で特徴的だが、雌は他のカモ類の雌に似る。雄は「ピリッ、ピリッ」と高い声で鳴く。本区では、河川、池沼等でみられる。



びはん
眉斑



ツグミ (ヒタキ科)

全長 24cm 程度。雌雄同色。体上面はほぼ褐色で翼は茶褐色、眉斑は白っぽい。「キョッキョッ」等と鳴く。地上を跳ね歩いて土中のミミズ類等を採食する。本区では社寺林の保存樹林等の樹林地や、公園等の草地にみられる。



びはん
眉斑



ウグイス (ウグイス科) 戦略

全長 14~16cm 程度。雌雄同色。頭からの上面は地味な灰色味のある黄緑色。眉斑は白っぽく目立つ。繁殖期(主に春)に「ホーホケキョ」とさえずる。本区では、樹林地のやぶや公園等の草地、市街地の植え込みでみられる。

野鳥 10種 (2/2)



コサギ (サギ科) **東** VU

戦略

全長 61cm 程度。ほかの白サギ類と比較して小さい。雌雄同色。全身白色で、足の指が黄色いのが特徴的。「グワッ」または「ゴァッ」と鳴く。本区では、河川、池沼等でみられ、浅い水辺で採食する。



カワセミ (カワセミ科) **東** VU

戦略

全長 17cm 程度。雌雄ほぼ同色で、背一面に光沢のある青色、顔の一部と腹は明るい橙色。雄のくちばしは黒いが、雌の下くちばしは赤い。「キー」「チー」「ツッピー」と鳴く。水中に飛び込んで魚類等を採る。本区では、河川、水元小合溜等の池沼で多くみられる。



コゲラ (キツツキ科)

戦略

全長 15cm 程度。日本で一番小さいキツツキの仲間。雌雄ほぼ同色で、頭部は褐色、背と翼は黒褐色に白い斑がある。「ギィ」「キッキキキ」と鳴く。元々は山地性の鳥だが、本区では市街地内の街路樹や公園でみられる。



シジュウカラ (シジュウカラ科)

戦略

全長 15cm 程度。頭部は黒く、頬は白い。背は緑黄色で、雌雄ほぼ同色。喉からの中央部分に黒いネクタイ模様が入る。繁殖期には「ツツピ、ツツピ」と鳴く。本区では、市街地の公園、街路樹でみられる。

昆虫類 18種 (1/3)



ギンヤンマ (ヤンマ科)

戦略

全長 65～84mm 程度。鮮やかな緑色のヤンマで、雄は腹の付け根が水色になる。腹部側面に白っぽい銀色の模様がある。成虫は4月下旬～10月頃にみられる。本区では、池沼、水路、公園内の水辺でみられる。



アキアカネ (トンボ科)

戦略

全長 32～46mm 程度。アカトンボといわれる仲間で、雄は成熟すると体の朱色が目立つ。成虫は6～12月頃にみられる。本区では、樹林地や草地、市街地等で広くみられる。学校内にある小さな水田でもみられることがある。



オオカマキリ (カマキリ科)

全長 70～90mm 程度、雌の方が大きい。体色は緑色や褐色のものまで変化に富み、後ろはねのもとに褐色の斑がつく。成虫は8～11月頃にみられる。日当たりのよい環境を好み、本区では、河川敷や公園の草地でみられる。



エンマコオロギ (コオロギ科)

戦略

全長 30～34mm 程度。眼の上にある眉のような褐色の模様がよく目立つ。雄は「コロコロリー」と鳴く。本区では成虫は7～11月頃、河川敷や公園の草地や畑地、特に草むらや石の下等に潜んでいることが多い。



カンタン (コオロギ科)

戦略

全長 15～18mm 程度。淡緑色で、体は扁平、細長い体型。葉と葉の間で「ルルルル…」と連続して鳴く。本区では成虫は8～10月頃、河川敷や「カンタンの里」のある公園等のやや丈の高い草むらやクズの茂み等に生息する。



トノサマバッタ (バッタ科)

戦略

全長 35～65mm 程度、雌の方が大きい。緑色から褐色で変化に富み、全身褐色型のものもある。本区では7～11月頃にみられ、イネ科やカヤツリグサ科の葉を食べる。河川敷や公園等の草地に生息する。

昆虫類 18種 (2/3)



クマゼミ (セミ科) **温**

戦略

体長 40～48mm 程度。はねは透き通り、付け根の脈の緑色が目立つ。「シャアシャア…」と鳴く。近年温暖化の影響等から日本を北上し分布を広げており、本区でも7～9月頃に成虫が市街地内の公園や街路樹で見られる。



アブラゼミ (セミ科)

戦略

体長 36～38mm 程度。はねは全体が茶褐色で透き通らない。「ジージリジリ」と単調に鳴く。日本各地の平地に普通にみられ、本区でも7～10月頃に成虫が市街地内の公園や街路樹で見られる。成虫の寿命は最長で1ヶ月程度。



ツクツクボウシ (セミ科)

戦略

体長 26～33mm 程度。頭部と体の上部は暗黄緑色または暗黄褐色で、黒色の模様がある。「ツクツクボーシ」と鳴く。本区でも成虫は7～10月頃にみられ、特に樹林地内の広葉樹林に多い。市街地内の街路樹等でもみられる。



ミンミンゼミ (セミ科)

戦略

体長 31～36mm 程度。体は太く短く、扁平である。黒地に緑色の模様がある。「ミンミンミンミンミー」と鳴く。本区でも成虫は7～9月頃にみられ、特に樹林地内の広葉樹林や市街地内の公園や街路樹で見られる。



ニイニイゼミ (セミ科)

戦略

体長 20～24mm 程度。体は主に緑褐色、黒色の模様がある。抜け殻には土が付く。抑揚のある声で「チイー」と鳴く。本区でも成虫は6～9月頃にみられ、市街地内の公園や街路樹のサクラやマツ等の幹で多くみられる。



ヤマトタマムシ (タマムシ科) **東** NT

戦略

体長 40mm 程度。背面は光沢のある緑色で、胸から後方にかけて赤色の線が入る特徴的な色彩。成虫は6～8月頃、樹林地や水元小合溜等の池沼にあるエノキやケヤキ類等の広葉樹林に生息する。本区では近年確認が少ない。

昆虫類 18種 (3/3)



ナガサキアゲハ (アゲハチョウ科) 温 戦略

前翅長^{ぜんしりょう}55~82mm。尾状突起^{びじょうとつき}がない。雄は黒一色、雌は胸の脇や後はねに赤色から橙色の模様がある。近年、温暖化の影響等から西日本から北上して分布を広げ、本区でも成虫は4~8月頃に市街地内の公園等でみられる。

クロアゲハ (アゲハチョウ科) 戦略

前翅長^{ぜんしりょう}48~68mm。ほぼ黒一色の個体と後はねに赤色の模様がある個体がいる。ジャコウアゲハとは腹が黒色であることで識別できる。本区では、成虫は4~10月頃にみられ、樹林地、市街地内の公園や街路樹に生息する。



ナミアゲハ (アゲハチョウ科) 戦略

前翅長^{ぜんしりょう}40~60mm。淡黄色のはねに黒いすじが目立つ、身近なアゲハチョウ。成虫は年に数回発生し、3~10月にみられる。本区では、河川敷や公園等の草地、市街地内の植え込み等でみられる。

テングチョウ (タテハチョウ科) 戦略

前翅長^{ぜんしりょう}23mm程度。黒褐色に橙色の模様がある。頭に長い突起があるのが特徴。成虫は3~11月にみられるが、本区では近年確認することが少なくなっている。夏には湿った地面で吸水する姿がみられ、樹林地等に生息する。



ツマグロヒョウモン (タテハチョウ科) 温 戦略

前翅長^{ぜんしりょう}36~39mm。雌雄で色彩が異なるが、雌は橙色のはねに黒い模様がある。幼虫はパンジー等の葉を食べる。近年温暖化の影響等から分布を北に広げており、本区でも4~11月頃に成虫が市街地内の公園等でみられる。

アカボシゴマダラ (タテハチョウ科) 外 戦略

前翅長^{ぜんしりょう}42~53mm。白黒のはねに赤色の模様が目立つ。国内の自生地は奄美大島周辺。関東での発見、目撃例も増えており、本区では市街地内の公園等で確認されている。

植物 15種 (1/3)



アカメガシワ (トウダイグサ科)

高さ 5~15m程になる落葉高木。新葉は赤く、毛に覆われる。雌雄別株で、6~7月に円錐状の花をつける。本区では市街地や樹林地辺縁部等の明るい場所で多くみられ、幼樹の姿も確認できる。



スギナ (トクサ科)

シダ植物で、地上に出る茎に2種類ある。緑色のものが栄養茎、ツクシは孢子茎である。栄養茎は高さ20~40cm、枝を多数輪生する。本区では、畑地や草地、市街地内の公園等でよくみられる。



ナガミヒナゲシ (ケシ科) 外

戦略

ヨーロッパ原産の1年草。茎は高さ20~60cm、4~5月に明るい橙色の花をつける。花びらが落ちると、長い楕円形の果実がよく目立つ。本区では、河川敷や公園等の草地、市街地の植え込み等でみられる。



シロツメクサ (マメ科) 外

ヨーロッパ原産の多年草。5~8月に長さ約1cmの球状の白い花序をつける。葉は普通3枚からなる。日本全国で生育し、本区でも河川敷や公園等の草地、市街地等で多くみられる。



スズメノエンドウ (マメ科)

つる性の2年草。葉は12~14個の小葉からなり、小葉は長さ1~1.7cm程度、先は巻きひげになる。似ているカラスノエンドウの小葉は長さ2~3cmと大きい。花期は4~6月。本区では、河川敷や公園等の草地等でみられる。



イモカタバミ (カタバミ科) 外

南アメリカ原産の多年草。花びらはピンク色で、やや濃い色の筋がある。葯は黄色。花期は4~10月。葉は、ハート型の3つの小葉からなる。本区では市街地や公園の草地等でみられる。別名フシネハナカタバミ。

植物 15種 (2/3)



アレチウリ (ウリ科) 特

戦略

北アメリカ原産のつる性の1年草。特定外来生物。花期は8~9月。果実は軟毛とトゲが密生し、触ると痛いため、危険。本区では河川敷や公園等の草地で繁茂し、他の在来植物に覆いかぶさる等の被害が生じている。



セリ (セリ科)

多年草。春の七草のひとつである。花期は7~8月、白色の小さな花を多数つける。葉は柔らかく、小さい葉が集まってつく。高さ20~50cmになる。本区では河川、水路、池沼等の水辺のある場所で見られる。



オオバコ (オオバコ科)

多年草。花期は4~9月。葉は数本の脈が目立ち、波打っていることが多い。日当たりのよい道端や荒地等に普通に生え、踏みつけられた道等にも生育する。本区では河川敷や公園等の草地で多くみられる。



オオキンケイギク (キク科) 特

戦略

北アメリカ原産の多年草。花期は5~7月。花は直径5~7cmで橙黄色。観賞用に栽培もされたが、現在は特定外来生物のため栽培は禁止されている。本区では河川敷や公園等の草地で見られる。



カントウヨメナ (キク科)

多年草。花期は7~10月、花は直径約3cmで、青紫色から白色の花びらが目立つ。高さは50~100cm程になる。果実の毛はごく短い。本区では、河川、水路、池沼等の水辺のあるやや湿った環境で見られる。



カントウタンポポ (キク科)

多年草。花期は3~5月。セイヨウタンポポと似るが、総苞片が反り返らないのが特徴。ただし、一部が反りかえる中間型も存在する。本区でも、河川敷や公園等の草地、市街地内の植え込み等でよくみられる。

植物 15種 (3/3)



ツククサ (ツククサ科)

1年草。花期は6～9月、鮮やかな青色の花びらをつけ、黄色の葯がよく目立つ。高さ30～50cmになり、葉の基部は茎を抱く。本区では、河川敷や公園等の草地、市街地内の植え込み等でみられる。



ジュズダマ (イネ科) 外

熱帯アジア原産の多年草。花期は9～11月。葉の中央の脈は白く、高さは100～200cmになる。果実をつつむ固い部分をつないで数珠にしたことからこの名がある。本区では、河川敷、水路、池沼等の水辺でみられる。



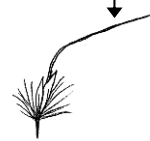
よく似たオギ

ススキ (イネ科)

大型の多年草。秋の七草のひとつである。茎は株立ちし、多数の小さな花が集まって穂となる。ひとつひとつの花から途中で折れ曲がる長い芒※がでる。オギに似るが、オギは株立ちせず、芒はない。またオギの穂は銀白色にみえる。本区では、河川敷や公園等の草地でみられ、オギよりやや乾いた場所に生育する。

※

途中で折れ曲がる長い芒のぎ



【ススキの花】

ほ乳類 2種 (1/1)



アライグマ (アライグマ科) 特 戦略

北アメリカ原産の特定外来生物。全長 60～100cm。タヌキに似るがより大型で、尾にしま模様があることで見分けられる。夜行性で、水辺を好む。農作物への影響、競合するタヌキや餌のカエル等在来種への影響も顕在化している。本区でも近年、河川敷等の草地での生息が確認され、樹林地や市街地での目撃情報もある。



ハクビシン (ジャコウネコ科) 外 戦略

全長 80～100cm。額から鼻にかけて白線の筋が特徴的。体色は灰褐色、顔と足の下部は黒褐色。木登りが得意で、本区でも電線の上を歩いているところを目撃されている。夜行性であるが、昼間にもみられる。また、区民宅のビワ等を食べたり、時には天井裏に入り込むこともある。

©東京都環境局

は虫類 2種 (1/1)



ミシシippアカミミガメ (ヌマガメ科) 外 戦略

北アメリカ原産の外来生物。「ミドリガメ」の名で大量輸入され、放されて野生化したもの。全長は 20～30cm 程度。頭部の側面に鮮やかな赤い模様がある。本区でも、公園内の水辺や水路、池沼等、あまり流れのない水量のある場所で多くみられる。



ニホンカナヘビ (カナヘビ科) 東 VU

日本固有種。全長 16～27cm。背面や脇腹は茶色。目の下から脇腹にかけて 1 本の白っぽい線が入る。ニホントカゲに似るが、ニホンカナヘビは細身でうろこに光沢がない。本区では、河川敷や公園等の草地、樹林地にあるやぶ、市街地内の民家の軒先等でみられる。

両生類 3種 (1/1)



ニホンアマガエル (アマガエル科) **東** EN **戦略**

体長は約2~4.5cm。背中は緑色、鼻先から鼓膜(耳)の後ろまで黒い帯状の模様がある。体色を灰色や茶色に変化することができる。「グエッグエツ」と連続して鳴く。本区では、河川敷、水路、池沼等の水辺でみられる。



ニホンアカガエル (アカガエル科) **東** EN **戦略**

体長は約3.5~7cm。日本産のアカガエルを代表する種。背中は黄土色から赤褐色まで変化に富む。「キュッキュッキュ」和鳴く。本区では、河川敷、公園等の草地や水路、池沼等の水辺でみられる。



ウシガエル (アカガエル科) **特** **戦略**

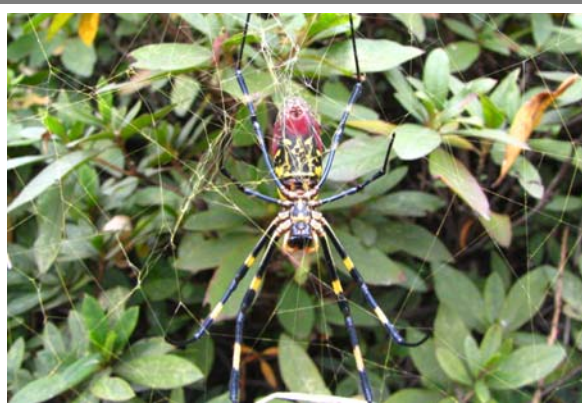
アメリカ東部原産の特定外来生物。体長は11~18cm程度。色は緑色に茶褐色模様等、変化に富む。食用に持ち込まれた。「ヴォォー」と牛のような声で鳴く。本区でも、河川、水路、池沼等の水辺でよくみられる。

クモ類 2種 (1/1)



コガネグモ (コガネグモ科) **東** VU **戦略**

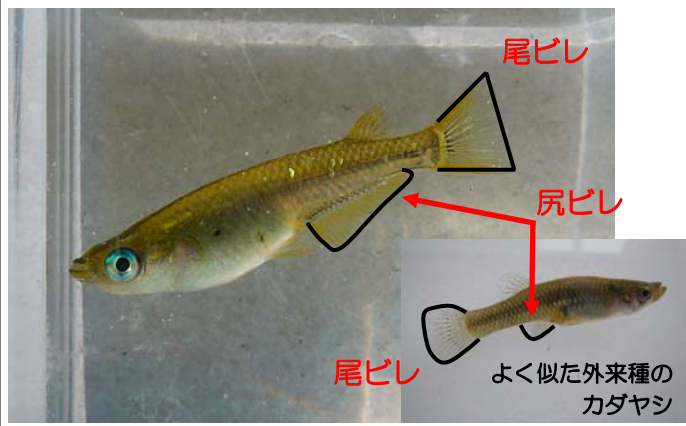
体長は、雌は20~25mm、雄は5~7mm。50~100cmの網を張り、網の中央にX形状のかくれ帯(糸の装飾)をつけ、その中心に脚を2本ずつそろえて止まる。本区では河川敷、公園等の日当たりのよい草地でみられる。



ジョロウグモ (ジョロウグモ科)

体長は、雌は20~30mm、雄は6~10mm。網は主網とその前後に糸を引き回したバリアーと呼ばれる網とで三重構造になる。本区では、河川敷、公園等の草地のほか、市街地でもみられる。

魚類 2種 (1/1)



メダカ (メダカ科) 環 VU 東 CR+EN

全長は 4cm 程度。目が大きく、うけ口で、口ひげはない。特定外来生物のカダヤシと似るが、尻びれの長さ、尾びれが角ばる点異なる。本区でも近年は確認することは少なくなっているが、流れのゆるやかな河川、水路、池沼等の水辺で見られる。



ブルーギル (サンフィッシュ科) 特 戦略

北アメリカ原産の特定外来生物。全長 25cm 程度。体高が高く、暗色の横帯があるが、成長にしたがって目立たなくなる。流れのゆるやかな水草帯等に生息し、水生昆虫やエビ等を好み、雑食性である。本区でも近年は河川、水路、池沼の水辺で確認されている。

底生動物 1種 (1/1)



ベンケイガニ (ベンケイガニ科) 東 留

全長 3.5cm 程度。甲や脚は赤色で、脚には短い剛毛が列状に生える。本区では、ヨシ等の抽水植物※が生育する浅い河川や水路の水辺で見られる。クロベンケイガニも同様の環境に生息するが、ベンケイガニは体色が赤いことで区別できる。

※ ちゅうすいしょくぶつ
抽水植物

水辺に生え、水中に生えることもあるが水底に根をはり、少なくとも茎や葉の一部は水上に出る植物。

例) ヨシ、ハス、ガマ、マコモ等

【写真をご提供いただいた方々】（50音順）

- 市原 みずよ 様 … ヤマトタマムシ、クロアゲハの左写真
- 加藤 秀雄 様 … ウグイス、ツマグロヒョウモンの雌
- 下山田 隆 様 … ツバメ、シジュウカラの左写真
- 田中 利勝 様 … アキアカネ、イモカタバミ、カントウタンポポ
- 中島 幸一 様 … エンマコオロギ、クマゼミ
- 橋本 浩基 様 … シジュウカラの右写真、ニイニイゼミ、クロアゲハの右写真、テングチョウ、アカボシゴマダラ、アカメガシワ、スズメノエンドウ、ジョロウグモ、メダカ、ベンケイガニ

【写真出典】

- アライグマ …… 農林水産省「野生鳥獣被害防止対策マニュアルーアライグマ、ヌートリア、キョン、マングース、タイワンリス（特定外来生物編）ー」（平成22年，農林水産省）
- ハクビシン …… ㊄東京都環境局

本資料に掲載した写真のうち、上記の写真提供および出典以外のもものは、葛飾区所有のもものです。

葛飾区自然・環境レポーター 自然環境調査 「55種の動植物の指標種」解説資料

2013（平成25）年8月

発行 葛飾区

企画・編集 葛飾区環境部環境課
〒124-8555
東京都葛飾区立石5-13-1
TEL：03-5654-8237

製作・編集 株式会社 地域環境計画